

# 全国学力・学習状況調査について

## 1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

## 2. 調査実施日

令和4年4月19日（火）

## 3. 調査の対象

泉佐野市立中央小学校 第6学年、全児童

実施児童数（ 100 人）

## 4. 調査の内容

### (1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語、算数・数学及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

ウ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

### (2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

### (3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

## 令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

### 1. 全体の傾向

- ・平均正答の全体的な分布状況は全国と比べ、中位層が平均を上回り、上位層と下位層の二極化は見られなかった。

平均正答率（本校 64／泉佐野市 62／大阪府 64／全国 65.6）

### 2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p><b>【話すこと・聞くこと】</b> ○互いの立場や意図を明確にしながらかつ画的に話し合い、自分の考えをまとめる 1四 「ゴミ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで□でどのように話すかを書く（39.0/47.7）</p> <p><b>【読むこと】</b> ○登場人物の相互関係について、描写を基に捉える 2一（2） 「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する（82.0/70.6） ○表現の効果を考える 2三 【山村さんの文章】の□Bに入る内容として適切なものを選択する（54.0/59.2）</p>	<p><b>【書くこと】</b> ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える 3一 【文章2】の□の部分をもどのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する（56.0/59.2） ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける 3二 【伝え合いの様子の一部】を基に【文章2】のよさを書く（33.0/37.7）</p> <p><b>【言葉の特徴や使い方に関する事項】</b> ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う 3三ウ 【文章2】の中の___部ウを、漢字を使って書き直す（したしむ）（54.0/67.1）</p>

### 3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
(49) 国語の勉強は好きですか	48.5	59.2	○	10.7
(50) 国語の勉強は大切だと思いますか	92.9	93.3		0.4
(51) 国語の授業の内容はよく分かりますか	81.8	84		2.2
(52) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	96	91.8		4.2

○(49)と(51)の質問で全国値より低い結果となった。しかし(50)(52)の結果から、多くの子どもたちが国語の学習が大切と考えているため、さらに興味関心を高め、主体的に学ぶ授業づくりを展開していく必要があると考える。

○本校の研究テーマ「書く力」を伸ばす取り組みとして、物語文の叙述を根拠に書く力はついてきているとうかがえる。

○互いの立場や意図を明確に書くことや、解決方法や自分の考えを具体的に書くことに関しては課題があると考える。この点については、国語の授業だけでなく様々な場面で自分の考えを具体的に書く力、多面的に物事をみていく視点をさらに伸ばしていくことが重要であると考えられる。

## 令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

### 1. 全体の傾向

- ・全国平均とほぼ同じといえる。しかし、その全体像はなだらかな弧ではなく、いくつかの歪な起伏が見られる。

平均正答率（本校 63／泉佐野市 61／大阪府 63／全国 63.2）

### 2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p><b>【A. 数と計算】</b> ○示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述することに課題がある。 1(3) カップケーキ7個分の値段を<math>1470 \div 3</math>で求めることができるわけを書く。(70.0/76.0) ○示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる。 1(4) <math>85 \times 21</math>の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ。(40.0/34.8)</p> <p><b>【B. 図形】</b> ○正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することに課題がある。 4(1) 示されたプログラムについて、正三角形をかきことができる正しいプログラムに書き直す。(42.0/48.8)</p>	<p><b>【C. 変化と関係】</b> ○示された場面のように、数量は変わっても割合は変わらないことを理解している。 2(3) 果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。(28.0/21.4) ○伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる 2(4) 果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く。(57.0/48.0)</p> <p><b>【D. データの活用】</b> ○目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることに課題がある。 3(3) 1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ。(57.0/66.8)</p>

### 3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
(53) 算数の勉強は好きですか。	63.6	62.5		1.1
(57) 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	66.6	69.3		2.7
(58) 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	86.9	80.4	◇	6.5

#### ○学力状況調査から

- ・整数の乗法の計算正答率 95%から計算技能は理解しているものの、積の大小の判断するための数の処理に課題があるといえる。
- ・数量が変わっても割合が変わらない問題から、全国より正答率が 6.6%上回っているが、28%という点から割合の単元に苦手意識があり、課題があると考えられる。
- ・全体的に無解答率が全国より低く、あきらめずに粘り強く解こうとする児童の意志を感じた。

#### ○学習状況調査から

- ・(53)(57)以外の質問から、80%以上肯定的な意見であり、意欲的にとりくめていることがわかる。
- ・(58)から上記の無解答率と重なるが、新しい課題、困難な課題などに直面しても、あきらめず粘り強くやりぬこうとすることがうかがえる。
- ・(53)(57)から普段の生活と結びつけ、より算数を楽しく思える授業展開を考えていかないといけないと感じる

## 令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

### 1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国と比べ中間層が高く，上位層は少し平均値より低く，下位層はほぼ平均値であった。

平均正答率（本校 61／泉佐野市 58／大阪府 60／全国 63.3）

学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科	特徴がみられた設問
<p>【「粒子」を柱とする領域】</p> <p>○一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く 2(1) メスシリンダーという器具を理解している (45.0/67.8)</p> <p>○メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取りさらにスポイトで加える水の量を選ぶ 2(2) メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている (61.0/70.0)</p> <p>○自分で発想した予想と，実験の結果を基に，問題に対するまとめを検討して，改善し，自分の考えを持つことができる 2(3) 水溶液の凍り方について，実験の結果を基に，それぞれの水溶液が凍る温度を見だし，問題に対するまとめを選ぶ (53.0/62.8)</p>	<p>○水は水蒸気になって空気中に含まれることを理解している 4(4) 鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は，何が変化したのかを書く (56.0/62.0)</p> <p>【「生命」を柱とする領域】</p> <p>○昆虫の体のつくりを理解している 1(3) 昆虫の体のつくりの特徴を基に，ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ (68.0/73.1)</p>

### 3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
(61)理科の勉強は好きですか	77.8	79.7		1.9
(62)理科の勉強は大切だと思いますか	83.9	86.5		2.6
(64)理科の授業で学習したことを，普段の生活の中で活用できないか考えますか	61.6	67.9	◇	6.3
(68)理科の授業で，観察や実験の結果から，どのようなことが分かったのか考えていますか	82.8	84.9		2.1
(69)理科の授業で，観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	76.7	72.2		4.5

○(61)の質問より，理科の学習は実験・観察などの主体的な活動が多く，児童の興味・関心は高い傾向にある。しかし，あまり経験のない実験や道具についての知識・理解は低く，日々の授業でしっかり実験・観察を行い，実際に触れていくことを大事にした授業づくりを展開していく必要がある。

○(62)の質問でおおむね肯定的な結果だが，(64)にはつながらなかった。日々の生活の中で，今まで学習してきたことが，普段の生活で活用されているとことに気がつくことができる視点を育てていくことも大切と考える。

○(68)(69)質問項目より，普段の授業で考える時間・振り返る時間を確保し，丁寧に一つひとつの授業を進めている様子が見えてくる。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	<p>○規則正しい生活習慣が身についていることがうかがえる。</p> <p>○1日当たりのテレビゲームやSNSや動画視聴の時間は、全国平均を上回っている。</p> <p>○地域の行事に参加する児童が少ない。</p>	<p>○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか 〈94.9/90.4〉</p> <p>○普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く) 〈28.3/19.7〉</p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加していますか 〈30.3/52.7〉</p>
【家庭学習の様子】	<p>○読書に対する興味・関心が高く、積極的に読書をする児童が多い。</p> <p>○新聞を読む児童は全国平均を下回った。世の中の動きに関しては興味・関心が低い様子がうかがえる。</p>	<p>○読書は好きですか 〈79.8/72.5〉</p> <p>○新聞を読んでいますか 〈8.1/13.8〉</p>
【学校での学習の様子】	<p>○友達と協力することや、意見交流によって自分の考えを深め広げることの楽しさを味わい、正義感を持ちながら学校生活を送る姿勢を持っている。</p> <p>○課題解決に向けて、自ら考えたり調べ学習をしたり、まとめて発表する経験をしてきている。</p>	<p>○友達と協力するのは楽しいと思いますか 〈100/94〉</p> <p>○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか 〈86.9/80.1〉</p> <p>○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか 〈100/96.8〉</p> <p>○学校に行くのは楽しいと思いますか 〈90.6/85.4〉</p> <p>○5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか 〈80.9/77.3〉</p>

## 本校の取組

### ◎これまでの取組

本校の研究主題は、「自ら考え、書き、伝え合う力の育成」である。「書く力」を伸ばす取り組みに注力して3年目を迎え、今までの積み重ねを感じられる場面を学年が上がるにつれて感じられるようになってきている。特に、「文章で表現する力」は豊かさが出てきており、相手の心に届くような比喩表現やオノマトペを織りこみ、丁寧な情景描写も入った読みごたえのある文章が書けるようになってきた。また、定期的な教員校内研修で、講師の先生から指導助言を頂き、書く力を伸ばす指導方法を研究してきた。今年度も実践を積み重ね、子どもたち一人ひとりが「書きたい」「読んでほしい」と感じられるように、さらに書く力を伸ばしていきたい。

学力力向上の取り組みとして、一つ目に朝学習の時間に全学年で「文章読解ドリル」を年間通して実施している。物語や説明文の読み取りだけでなく、言葉の使い方(接続語・こそあどことばなど)に関する問題もあり、学年に応じた基礎を定着させる手立てとして有効と考える。二つ目は国語科「書くこと」学習領域の授業づくりの研究実践をしていること。昨年度作成した全児童が積極的に授業参加でき、文章を書くことのできるワークシートを活用し、さらに今年度は自分が書いたものを推敲・校正できるためのチェックシートを使用した授業づくりに取り組んでいる。三つ目は、算数教科における問題解決型学習を全クラスで行っていること。自ら課題と向き合い、その解決方法を考えることにより思考力・応用力が高まると考えられる。友だちの考え方に触れることにより、よりよい解決方法にみんなで辿りつくこともでき視野を広げていくこともできる指導方法であると考え。四つ目は、算数教科での少人数・習熟度別指導である。学年や単元に応じて学び方を変え、分かりやすい・身につく授業を行っている。細やかな年間計画のもと、四年生以上の全児童が丁寧に毎学期学習したことを少人数で復習する機会も設定されている。五つ目は全学年毎日宿題で出している算数型音読の「マストレ」である。同じ問題を解きながら音読することで、数量の感覚、計算力、単位換算の知識定着を狙いとしている。

生活向上の取り組みとして、「あんぜん・あいさつ・あいてのきもち」を生活重点目標としている。また、各学年が児童の実態を踏まえながら、学年目標を立てている。その目標にせまることができるように、学年に応じた取り組みを行い続けている。委員会活動では、子どもたちが主体となり、運動会のスローガンを決めたり、児童朝会であんぜんに関する啓発を行ったり、みんなが楽しくすごせるような企画を立ち上げるなど、活発に活動している。

### ◎これからの取組

今年度の全国学力・学習状況調査結果から本校の課題を改善するために、以下のことに取り組む。

#### 【国語】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「話すこと・聞くこと」に課題が見られた。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関しては、学年別漢字配当されているものがきちんと定着するよう反復学習に努め、さらに文章を書くときには、積極的に習った漢字を使うよう指導を続ける。

「話すこと・聞くこと」に関しては、相手を意識し、自分の考えをまとめて話す技能を国語科で学び、日常的に話し合う活動を取り入れた授業づくりを行う。

#### 【算数】

【A. 数と計算】【B. 図形】【D. データの活用】に課題が見られた。

まず、基礎基本の反復練習に努める。次に計算方法や考え方を言葉や数値を用いて記述すること、解を出した後に説明することを大切にする授業を行っていくことで課題の克服をめざす。また、図形においては具体物を操作させる等、イメージしやすくすることで、図形感覚を高めていく。

#### 【理科】

『「粒子」を柱とする領域』と『「生命」を柱とする領域』で課題が見られた。

「粒子」を柱とする領域においては実験やそこで使う実験道具は実際に触れて、実験を行うことが重要であり、理科室にある道具は安全に配慮しながら積極的に使用していく授業改善が必要である。

「生命」を柱とする領域では、知識として定着し続けられるよう、日々の生活の中で学習内容を想起させる機会を持つことが大切であると考え。